

特定非営利活動法人ふくてっく第14回総会議事録

1. 日 時：平成27年 8月 1日 14時13分から 16時10分まで
2. 場 所： 大阪市社会福祉研修・情報センター 3階会議室
3. 出席正会員数：29名（うち委任状出席者数9名） 正会員総数 39名

事務局長中北 清は、上記のとおり正会員数の過半の出席があったので、総会が有効に成立する旨報告し、続けて議長の選出を諮ったところ、小川忠雄理事長を議長に推す声があり、全員の賛同を得た。

4. 開会の宣言

理事長小川忠雄は、選出を受けて議長席に着き、14時 15分 特定非営利活動法人ふくてっくの総会の開会を宣言し、議事に入った。

5. 書記および議事録署名人の指名

冒頭、議長は本総会の議事録作成を 中北事務局長 に命じ、また議事録署名人には、和泉理事、清水理事の両名を指名した。

6. 議 事

第1号議案 平成26年度活動報告および各部収支報告承認の件 理事長総括

議長は自ら、26年度活動状況を総括し報告した。

事務局報告

議長は中北事務局長に、事務局活動の報告を求め、中北は資料に沿って報告した。

ふくてっくのつどい

議長は自ら26年度の「ふくてっくのつどい」そしてその一環としての「ものづくり活動」「たいけん活動」「ものしり活動」の経緯を報告した。

東大阪部会

議長は東大阪部会の活動について清水理事に報告を求め、清水理事は資料に沿って26年度の活動実績を報告し、東大阪市での検証活動の進展や、尼崎市での支援事業は順調に推移して、大きな収益も残すことができたものの、部会が独自予算を持って取り組もうとしてきたワンポイントアドバイスは、またも次年度に繰り越すこととなったことを述べた。

こむねつと事業部会

議長はこむねつと事業部会の活動について中北理事に報告を求め、中北理事は資料にそって、年度途中で提起した「4本の矢」について、その経過と成果を報告した。

20周年記念事業検討委員会

議長は20周年記念事業検討委員会の活動経過について清水理事に報告を求め、清水理事は、記念事業の完結を飾った記念パーティの概要を報告した。

議長は、以上理事長総括に始まる各部活動報告および収益費用方向について、意見を求めたところ、特に異議はなかったので、採決に移り、全会一致でこれを承認した。

第2号議案 平成26年度決算報告承認の件

議長は中北事務局長に、26年度決算報告を求め、中北事務局長は活動計算書、貸借対照表、財産目録、の諸表について報告した。

議長は以上報告に基づいて、意見を正したところ、異議なく全会一致でこれを承認した。

第3号議案 監査報告承認の件

議長は秋岡監事に、監査報告を求め、秋岡監事は監査報告書を示して法人の財産管理状況、会計状況、その他の状況について問題がないことを報告したので、全会一致でこれを承認した。

秋岡監事は、補足して、過年度までは各部会が活動の活性化と経費節減に努めた成果が財務状況に結実しており、中には当然に経費計上すべきものが表面化していないとみられる。今後は、必要な経費は計上するように勧める、と発言し、一同異議なく承認した。

第4号議案 平成27年度活動計画の件

ふくてっくのつどい活動方針

議長は自ら、「ふくてっくのつどい」活動計画について、「ものづくり活動」「ものしり活動」「たいけん活動」に大別してその構想を述べた。

いずれも大きな収益は期待できないなかで、「出来ることを着実に」という趣旨に賛同する多くの会員の参加を訴えたところ、一同、議長の提言には異議なく、これを全会一致で承認した。

東大阪部会

議長は東大阪部会の活動計画について清水理事に報告を求めた。

清水理事は資料に沿って、東大阪市および尼崎市における委託事業が昨年度に引き続き順調に発展してゆくことに併せ、昨年度は必ずしも計画通りに進捗しなかった「出前講座」や「ワンポイントアドバイス」など、各種取組についての活動予定を詳細に報告した。

また新たな社会貢献事業として「東大阪市共同生活援助ホーム住環境調査」取り組む企画を開始する旨、報告した。

こむねつと事業部会

議長は、こむねつと事業部の活動計画について中北理事に報告を求めた。

中北理事は、こむねつと事業部の多岐に亘る事業課題を、「地域福祉環境整備」という共通概念のもとに背骨を通して、それぞれの発展を企図する旨、報告した。

また、本年度もは来春の部会に於いて、障害者施設見学を織り込む予定を示した。

議長は、以上各部・活動の計画表明および議長の部会再編構想について、参加会員に意見を求めた。会場からは特段の意見表明はなく、採決に移ったところ、全会一致でこれを採択した。

第5号議案 平成27年度予算計画

議長は、中北事務局長に27年度予算計画の説明を求めた。

中北事務局長は、26年度予算・決算と比較しながら27年度予算の説明を行った。議長は、以上の報告を受けて賛否を問うたところ、異議なく全会一致でこれを承認した。

第6号議案 理事・監事の改選について

議長は、今期が理事・監事の改選時期にあたっていること、今回退任予定の理事・監事はなく、全員留任としたいことを述べた上で、新たな理事候補として、池端一義会員と荻田保志会員を推薦することを理事会で決定したことを報告し、会に賛否を問うたところ、全会一致でこれを承認した。

また、池端、荻田両会員はこれを受諾した。

新理事は、引き続きその場で、理事長の選任に移り、合議の結果全員一致で小川理事の重任を決定した。

議長は、全ての議案をふり返って、参加会員から意見等を再度求めたところ、佐藤宣三郎会員が発言し、

1. 介護保険制度的環境が浸透する中で、福祉サービスがどんどん狭められている現状があり、ふくてっくとして、そのような社会課題にどう対応してゆくべきかを検討してほしい。
また、社会福祉法人の課税問題が取りざたされているが、そのような事態となれば、日本の福祉は壊滅するだろう。自治体の窓口対応職員がつぶされていく危惧もある。
2. 障がい者の地域生活環境を整えるうえで、グループホームの拡充が喫緊の課題だが、施設整備補助が期待できない中で、2級年金障がい者ではグループホームでの生活は経済的にきわめて困難である。どうすれば、課題を克服して、全ての障害者が当たり前で社会生活できるのかを考え、運動展開していく必要がある。
3. ふくてっくの福祉サービス第三者評価は、とても有効な取組になりつつあるが、これをもっと社会に訴えていくような形に昇華して行けないものだろうか。
また、この年度に予定している、奈良県手をつなぐ育成会の第三期評価においては、是非、虐待問題について、その核心に切り込んだ取り組みとしてほしい。
福祉の現場では、虐待問題は、何処まで行っても解消しきれない現実がある。
4. 社会福祉法人の社会貢献が強く要請されているが、それは単に無料あるいは低額のサービス提供であっていいのだろうか？法人が有する福祉ノウハウを活用した活動で貢献することこそが本質ではないかと考えるが、どのようにすればそれが実現できるか？

以上、会のミッションに関する課題を問題提起した。

行政窓口職員の疲弊状況については、清水会員は、それは私たち市民活動の目には、やや脆弱に映るとの指摘があり、一方、大塚会員は、社会の歪がそこに集約されている結果だろうとの評価があった。

いずれにしても、佐藤会員の提言内容は主として、こむねっと事業部が展望する活動に重なる部分が多く、中北理事は、今後の検討課題として、真摯に受け止めた旨、発言した。

議長は、以上をもって特定非営利活動法人ふくてっくの総会に関するすべての議事を終了した旨を述べ、閉会を宣した。（16時10分）

以上の議事の要領及び結果を明確にするため、議長並びに議事録署名人は、次に記名押印をする。

平成27年 8月 1日

議 長 印

議事録署名人 印

議事録署名人 印